Dans la tourmente révolutionnaire

革命の嵐のなかで

～マリアの御心会創立物語～

アラン・ドランジュ［絵］
ピエール・ドンブル［文］
安達まみ［訳］

Les Filles du Cœur de Marie

FONDÉES PAR
Pierre-Joseph de Clorivière
ET
Marie-Adélaïde de Cicé


AU PLUS VAILLANT LE PRIX
1749年11月5日 レンヌ
ドゥ・シセ館
旦那様
お嬢様で
ございます
ぼくは弟が
ほしかったのに!
マリー=アデライド・ドゥ・シセは
サントーバンの教会で
洗礼を受けた

翌年 父が帰天

母上をおひとりには
させません！

やがて
ドゥ・シセ館に
いつもの日々
が戻ってきた

で パリのサロンで
もちきりの
“啓蒙の精神”
とは何のことか

理性のことだよ 君！
その光に照らし
我々はこの宇宙を理解するのだ！

どうか
お恵みを！

なぜあの方々は貧しいの？

だから お母様が
助けようと
なさるのですよ
女の子達が手に職を
つけられるように

なぜわたしに
このお金を？

貧しい方達のためです
わたしには必要ないけれど
あの方達には必要だから！

10歳のとき
アデライドは
訪問会修道院で
初聖体を受けた

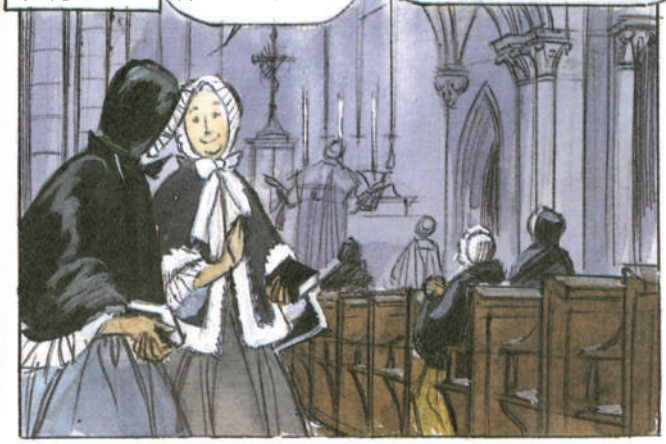
朝起きると まず神様のことを考えます



その生活は祈りと慈善のための訪問に捧げられていた…

ドゥ・シセお嬢様は
毎朝ミサに
行かれますのよ!

あの若さであれほど
信心深い方は
珍しいですね!



貧しい人々を
訪ねて…

まあ お嬢様 なんと
お礼を申しあげたら
いいのやら

いいえ お礼などと
おっしゃらないで



手仕事をしながら…

ジェロームお兄様は
司祭になったら
どうするのかしら
お母様

ジャン=バティスト
お兄様*のように
司教様になりたいの
でしょうね

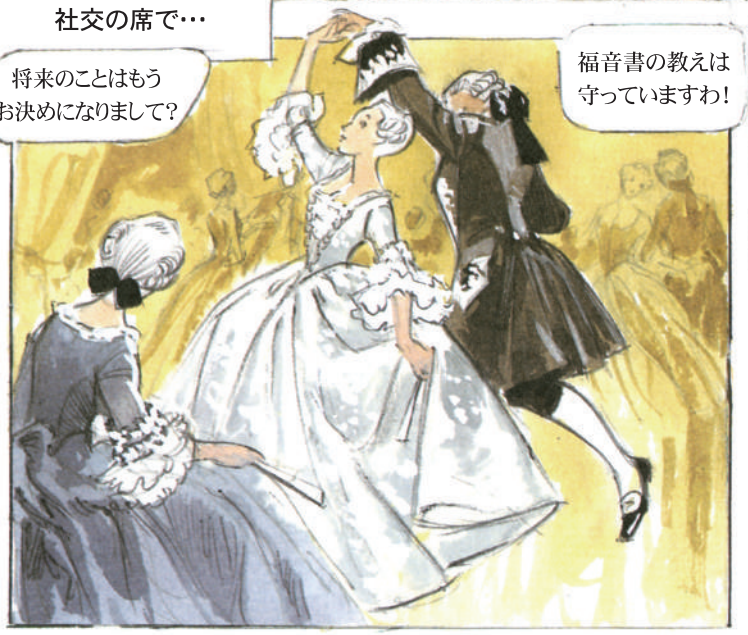


*ジャン=バティストは
1761年オーセール司教
に任命された

社交の席で…

将来のことはもう
お決めになりまして?

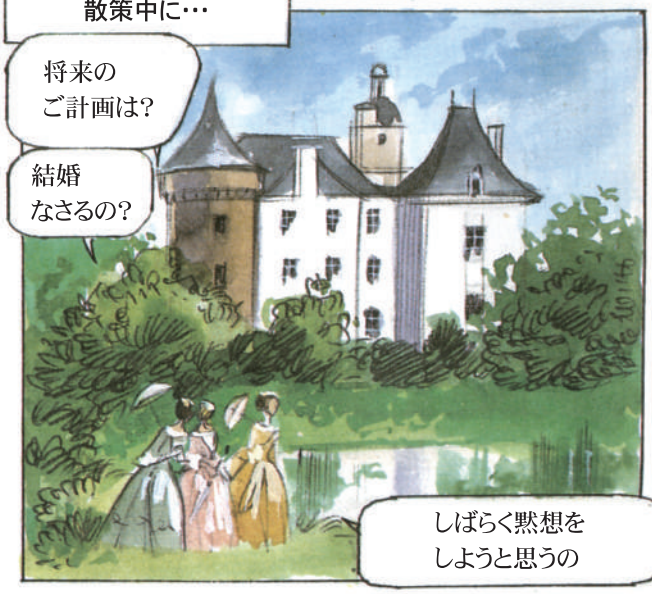
福音書の教えは
守っていますわ!



散策中に…

将来の
ご計画は?

結婚
なさるの?



しばらく黙想を
しようと思うの

すべては神様をお喜ばせするため
自分を満足させるためではなく



1777年4月から10月まで 訪問会
修道院での修道生活の試み

主よ 全世界で祝せられたまえ その聖なるみ名 祝せられたまえ

ところが 兄達 特にオーセール司教ジャン=バティストから
圧力がかかり…

お妹さんの召命に異を唱えることなどおできにならないのでは…

母親の世話こそ妹の第一の義務です

これからどうするのですか?

神様と苦しんでいる人々に生涯を捧げるという望みは変わりません ですが 今は母のそばにいることがわたしの務めです

それから7年間
彼女はドゥ・シセ館で
すごし
貧しい人々や
病人を世話し
修道院長に従うように
母親に従った

1784年
母が帰天
アデライドは
34歳に
なっていた

これからどうなさるおつもり?

修道生活への憧れも
貧しい人々への奉仕も
同時に強く望んでいるの

主よ
あなたを信頼します
あなたのみ旨に
どのように応える
べきかお示しください
わたしを
導いてください

レンヌの
カルメル会で
黙想した

主よ
み旨をお示し
ください

DOMINE
MISERERE SUPER
ISTA PECCATRICE

わたしが呼ばれているような修道生活は
どんな修道会にもないようです

あなたが考え
ているのは
どのようなもの
かしら?

彼女は救済院で働き 家庭を訪問した

もちろん
修道者である
こと…
でも この世に
留まりながら!

娘達のことが
心配で!

手に職をつけて
きちんとしたところで
働けるように
お手伝いしましょう

アデライドは彼女達の
養成に心を傾け
信仰を身につけさせた

イエス様が望んで
おられるのは あなた方が
幸せになることです
あなた方が幸せになる
ように助けてくださいます


だがアデライドは力尽き病に倒れた
ディナンで鉱泉療法を受けるしか治るすべはない
ディナンの鉱泉と美しい自然のなかの散歩道はすばらしく彼女は体力を回復する
ディナンではウルスラ会の修道院に滞在
告解を聴いてくださる方ならこの修道院付きの司祭ドゥ・クロリヴィエール神父様はいかが?
どなたです?
神学校の校長でわたし達の聴罪司祭ですたいへん信頼できる方ですまさに神にお仕えの方です
サン・マロのご出身で パリで法律を修められてから イエズス会に入会なさいました
でも イエズス会はフランスでは1762年に廃止されたのではありませんか
そのとおりです神父様は海外に亡命されましたが会の廃止の直前に誓願をお立てになり普通の司祭としてフランスにお戻りになったのです


1787年8月4日マリー=アデライド・ドゥ・シセとジョゼフ・ドゥ・クロリヴィエール師は初めて出会う師を信頼したアデライドは すぐに修道生活の構想を打ち明ける
まったく斬新で
かつ特別な形の
修道生活ですね
まずは神様が道を
照らしてくださるように
祈りましょう
それから
まもなく
まず初めに
実際に修道生活を送って
みてはどうでしょう
サン・セルヴァンの十字架の
姉妹会の院長を存じあげて
います 会いに行きなさい
適切な助言を与えて
くださるでしょう
十字架の姉妹会で黙想をした後 アデライドはそこで修練期をすごすようにドゥ・クロリヴィエール師に勧められた
だが レンヌの聴罪司祭はこの計画をあまり歓迎しなかった…
あなたは神経質で
感情に流されやすい
共同生活に
耐えられない
でしょう…
ですが 神様の恩寵があれば
どんなことも可能です!
それはそうですが…
神がわたし達を
お呼びになる生活は
わたし達の
性格や気質に合う
ものですよ
わたしの計画が
悪魔のひきおこす
幻影だとすれば?


忠告には
事欠か
なかった
考えてもみなさい
アデライド!
体が弱いのですから
修道院で生活したら
すぐに病気になって
しまうわよ!
安楽な生活に
慣れている
あなたが
修道院に
入るなんて
ありえないわ!
アデライドの決心は
揺るがなかった
1788年9月8日
サン・セルヴァンの
十字架の姉妹会に
入会
修道会の会則と
祈りの生活に
従いますね
慈善の仕事の
ための時間も
とっておくと
いいでしょう
修練期が
始まった
施療院の
面会室で
明日も来た
ほうがいい
ですか?
いいえ
あなたはとても
疲れています
わたしがお宅に
うかがいましょう
翌日
自分の家を
見違えて
しまいます!
神様が
手をさしのべられれば
何でも変わるのですよ!


友達は…
そのかっこうは なんですの?
生活を変えた ことを示して いるのよ
だからって そんなかっこうをしなくても!
ドゥ・クロリヴィエール師の 勧めで アデライドは 活動の場に合う服装を 身につけることにした 一方 彼女は自分の性格 のことで悩み続けた
わたしはささいなことに 傷つき うぬぼれが とても強く 自己愛がありすぎる いくら祈っても 心安らかにならない
師はつねに 手紙で 励ましてくれた
そうだわ わたしは神様の中に 自分が持ちあわせない 力や勇気を 見いだすのです
1789年7月 フランス革命 勃発
兄 ボルドー司教 ジェロームは 革命側に与し 国民議会に 参加していた
修道生活の 誓願宣立を 禁止せねばならぬ! 人間の自由と尊厳を 損なうものなの だから!
誓願を 立てることで 神に身を捧げた 修道士や修道女は 人間の尊厳と自由の ために より一層 大いなる奉仕が できるのです!
ドゥ・クロリヴィエール師は果敢に反対した 1790年3月25日 ディナンのサン・ソヴール教会にて

翌日
師は市議会
に召喚された

あのような説教は
賢明とはいえませんな
ひかえないと殉教者
にされてしまいますよ

わたしにはそのような
恩寵にあずかる価値は
ありません
ですが それが神の
み旨なら喜んで
従いましょう

自由になると
師は友人の家に
身をよせた
友人マダム・デ・
バッサブロンの家で
未来の修道会の
最初の中核となる
人々に出会う

マリー=アデライド・ドゥ・シセ
マダム・デ・バッサブロン
メトリ・オフレ
アマブルと
テレーズ・シュニュ
である

これからどうなさる
おつもりですか?

わたし達の使命も
そこにあるの
でしょうか?

私はカナダに行き
イエズス会を
再建するつもりです

誓願宣立禁止法により
革命政権は修道生活を
抹殺しようとしています

1790年7月19日
ドゥ・クロリヴィエール
師は突然
インスピレーションを
受けた

いかなる場所
いかなる状況でも
いかなる代償を払っても
神へのまったき奉献を
維持せねばならない…

地の果てまで
全世界で
なぜ これが
できないのか…

師は
「イエズスの聖心会」
という男子修道会の
構想を起案する

世のただ中で
主との親しい
一致の生活と
使徒的生活を
するのだ

1790年8月18日
第2のインスピ
レーションを受ける

女性のためにも
同じような会を
作ろう

8月27日
「マリアの御心会」
の構想の草案が
完成した

ディナンに行きなさい
新しい形の修道生活を
受け入れる人々がいます
わたしは司教達から
計画の承認を得るために
パリに発ちます

最初の
会員達

社会で働きながら
神様に捧げた生活を生きるのです

どんな
服装で?

着慣れた服装を
続けましょう

マドモワゼル・グヨン・ドゥ・ボーフォールへ…

わたし達は貧しい人々
虐げられた人々に
近づかねば
なりません…

サン・マロ パラメディナンで12人あまりの女性がアデライドの仲間に加わった

一方 パリのドゥ・クロリヴィエール師は

我々の会は
廃止された修道会を
補足するのです



1791年2月2日 モンマルトルの殉教者礼拝堂で
新しい形の修道会が誕生した



同日 アデライドはディナンで
11人の仲間はそれぞれの出身地で 奉献を誓った

至高の王
すべてのものの神なる主よ
あなたの母なる聖母マリアを通して
わたしはわが身をすべて
あなたにお捧げします
力のある限り あなたに一致し
あなたに従います



ふたつの会の会員はひとりひとり
奉献の宣誓書に署名した



マリー=アデライド・ドゥ・シセは新しい修道会の院長になった

自分の家に留まり働きながらあなたの会に入りたいのですが?

もちろん 主があなたを呼んでおられるなら

サン・マロ近郊のアデライドの家に貧しい人々が集まった

もう何日も食べていないんです…

体を温めるものがありません

さあ スープを召しあがれ

こうしていつも貧しい人々に薪と小麦粉を与えているのに 蓄えがなくならないなんてほんものの奇蹟です

1791年5月 パリからの便り…

悪い知らせでも?

ドゥ・クロリヴィエール神父様からよ 今こそ主のために大きなことをすべき時がきたと書いてある…

…パリに行かねばなりません

生まれ育ったブルターニュを出るのですか? まさか そんな!

不安や危惧を
退けながら
1791年11月
アデライドは
パリに到着した

マリアの御心会の3人の会員が
彼女を出迎えた

神父様はどこに
いらっしゃるの
ですか?

近くにおられますが 隠れておいでです
宣誓を拒否なさったので

お会いしたいのですが

このご時世ですから
とても気をつけなければ
捕まったら ギロチンに
送られますからね!

アデライドはパリにいる会員達を訪ね
いつも違う場所で会合をもった

院長の
ドゥ・シセ様です

お会いするのを心待ち
にしておりました
新しい形の修道生活
に早くふさわしく
なりたいと思います

アデライドは集会を開いた

修道会は廃止されましたが
わたし達は
修道生活の本質を守り
貧しい人々の力になって
廃止された修道会を
補いましょう


1792年8月15日
アデライドは
誓願を立てた
わたしの魂は
主を讃えます
アデライドは何度も
ドゥ・クロリヴィエール師の
もとを訪れた
わたしに逮捕状が出ています
一層警戒せねば
他のマリアの御心会会員と同様
アデライドも宣誓を拒否した司祭達を匿った
1792年9月の
虐殺のさなか
4人のイエズスの
聖心会会員の
司祭が殺害された
アデライドは救済院の
看護の仕事に志願した
同志
ご病人は
いかがですか?
よくなりましたわ
同志!


若い女性達が
彼女の
つつましい
住まいに
やってきた
この会の強みは どこでも
めだたずに活動できることです
初期のキリスト信者の生き方と
同じですね
なぜ
修道誓願を
お立てになるの
ですか?
私達が
修道者だからです
命をかけて
キリストに従う者なのです
アデライドは
パリ カセット
通り11番地に
住む
恐怖時代 マリアの御心会の最初の
会員マダム・デ・バッサブロンが
逮捕され 死刑を宣告された
貴族を縛り首にしろ!
貴族に死を!
1794年6月20日
彼女はギロチンの
露と消えた


サンルイ島の
シュザンヌと
ジュヌヴィエーヴ・
ベルサネの
洋裁店で
ドゥ・クロリヴィエール神父様
からのお手紙です
「主を信頼しなさい 救いの手を
さしのべてくださいます
すると 悲しみが喜びに
変わります」
ドゥ・クロリヴィエール師もカセット通りで
昼間はクロゼットの中に隠れ 夜は聖体を運んだ
危険にさらされても
マリアの御心会の
会員は増え続けて
います
あなたのおかげです
あなたこそ
会の母に
ふさわしい
恐怖時代に続く
総裁政府時代になると
世の中が少し落ち着く
1795年以後 亡命者達が
フランスに戻ってくる
マダム・ドゥ・セスヴァルも
そのひとりだった
長らくフランスを
離れているのは
辛いことでしたが
亡命中 よく考える
ことができました
神への
奉仕のうちに
生きることが
わたし達の
望みです
アデライドに亡命者を匿っているという嫌疑がかけられる
カセット通り11番地
ここは
ずいぶん出入りが
あるようだが…
当然ですわ
荷車引きが住んで
いるのですから…
トランクが7つもか…
多すぎる!
亡命者の荷物だろう


1799年
共和暦12月3日
(8月23日)
カセット通り…
家宅捜索だ!
その女を逮捕せよ!
アデライドは3週間
プレヴニュの牢獄ですごす
あの女を見な!
お高く
とまってさ!
きっと
ギロチン送りだ
ふん!
あたしらと同じ
じゃないか!
取り調べ室で
おまえは亡命したのではないのか?
いいえ 滞在証明書にあるとおり国内におりました
パリでいつもだれと会っているのか?
知人達です
釈明する必要は
ないと思いますが
あの女は狂信的な
物言いをする
少し頭がおかしい
ようだ…
たぶん…
亡命者や
共和国内の敵と
内通している証拠は
ありませんな


アデライドは
監視つきで釈放される
勇敢に闘ったが
すっかり自信を
なくしていた
わたしには何も
できないのでは
ないか…
ドゥ・クロリヴィエール師は
親身になって彼女を
励ました
「すべての不安を
神のみ手に委ねなさい
神に希望を置く人を
神は見捨てません」
アデライドは慈善の仕事を続けた…
明日 戻って
きましょうか?
いいえ こんなに弱っているの
ですから わたしがお宅に
行きますよ
1799年ブリュメール18日(11月9日)
ナポレオン・ボナパルトが政権を握る
1800年ニヴォーズ3日(12月24日)
オペラ座への道中…
突然…
将軍
爆弾です
お怪我は
ありませんか?
大丈夫だ
オペラ座へ
急げ!

凄まじい爆発のせいで数名の死傷者がでた…数日後 犯人のひとりカルボンがやってきた…

ドゥ・クロリヴィエール神父のご紹介で来ました 亡命していました 匿っていただけませんか?

神父様のお知りあいなら…隠れ場所をお探ししましょう

アデライドはカルボンをデュケーヌ夫人の家に隠れさせたところがまもなく…

カルボン同志逮捕する!

隠れ家を世話したのはだれか?

ドゥ・シセ様です

アデライドはサン・ペラジーの牢獄に投獄されたそこには身持ちの悪い女や 盗みを働いた女達がいた

アデライドの品のあるふるまいと献身的な態度は彼らの心をとらえた

静かに! あの方がお祈りをしてるよ

彼女はドゥ・クロリヴィエール師の名を判事に明かさなかった 弁護人が口を割るようにしむけても無駄だった

黙っているとどうなるかわかるな 死刑だぞ!

必要なら死にましょうですが 無実の人を売り渡したりしません!

1801年4月1日裁判のようす

首謀者のひとりリモエランがおまえの家に来たとカルボンは証言しているが

だれの名も申しません


大勢の人がアデライドの釈放のために証言した
ドゥ・シセ様はよいことしかなさいません みんながそう証言するでしょう
彼女の弁護士が熱弁をふるい裁判官から憲兵まで法廷内のすべての人の心を動かした
ニヴォーズ3日の爆弾事件で夫を奪われた女性が大勢います
彼女達を救い 慰めたのはこの方です
この方を社会に返してください
この事件で大勢の貧しい人が生まれました
貧しい人がいなくなるように
この方は力のかぎりを尽くすでしょう
彼女の釈放を歓迎する人々
ドゥ・シセ様いいぞ!
なんてお偉いのだろう!
聖人です!
釈放後ドゥ・クロリヴィエール師に会う
警察庁長官に追われています しばらくルーアンに身をひそめます
わたしもまだ監視つきの身です 後で参ります
出発前
留守中はマダム・ドゥ・カルカドに会の統治をマドモワゼル・デシェに補佐役をお願いします

ドゥ・クロリヴィエールとアデライドは1年以上 ルーアンにいた
1802年 ふたりはエクサンプロヴァンスに赴く
当地の司教であるアデライドの兄がふたりを迎えた

司教様 こちらの
司教区で宣教活動を
させていただけますか?

この地に
わたし達の会を
定着させられない
ものでしょうか?

いや 新政府に
逆らうことは
できない!

1803年 ドゥ・クロリヴィエールはプロヴァンスを去り
ポワティエ トゥール ブザンソン オルレアンの
共同体を訪れた

1803年10月
パリに戻る前
アデライドは黙想の
ためにヴァラントンの
トラピスト修道院に
滞在した

主よ わたしは
マリアの御心会を率いるのに
ふさわしくありません…
徳に欠けるのです

ついに
パリで…

お留守中
どんなに
寂しかったことか!

アデライドは
重い病に倒れた…
ドゥ・クロリヴィエール
から定期的に
手紙が届く

神のために苦しむほど
すばらしいことはありません…

1804年5月5日 王党派カドゥダルの陰謀が発覚し
ドゥ・クロリヴィエール師は共謀の疑いで逮捕された

容疑者ですって!

でも 神父様は陰謀となんの関係もないわ

師は初めラ・フォルスの監獄についでタンプルの監獄に投獄されそこで4年間すごす獄中で執筆に励み祈った

ドゥ・シセ様を監視しているのねずっと続くのかしら?

そうよ お病気でなかったら あの方も投獄されたでしょうね!

回復するとアデライドはふたたび会員の養成にとりくむ…

わたし達はこれまで以上に慎重で賢明でなければなりません マダム・ドゥ・カルカドが神父様に接触してくださいます

クロリヴィエール神父様がお書きになったわたし達の会の記録に教皇様は好意的だったそうですね

ローマから正式の認可が得られる第一歩ですね!

週に2回 マダム・ドゥ・カルカドとマドモワゼル・ポミエは師に情報と食料を運んだ また 衣類の間にしのばせて平たい箱に入った聖体を差し入れた

つまらないものですが…

何より大事なものです!

1804年
ピウス7世の
パリ訪問時
謁見のようす

ふたつの修道会の
構想を認可します

教皇様
感謝申しあげます
マリアの御心会会員と
わたしに祝福を
お与えください



ドゥ・クロリヴィエール師
の投獄中 アデライドは
イエズスの聖心会を
力づける

司教区に会が根づくために
司教様達を説得してください



この世にあって社会の要請に
応えるために 修道者の身分を
知られずに奉献を生きられる
ように 会員達を養成した





娘達 あなた方は何のために
主に呼ばれたのでしょう
愛徳と慈善に捧げられていた
多くの修道会を教会は
革命によって奪われました
その教会を助けないでいられましょうか

マダム・ドゥ・セスヴァル
とマダム・ドゥ・カルカド
は孤児のための
事業を始めた

手に職を
つけましょう
そして仕事を
みつけてあげます



「カルカド=セスヴァル・センター」は
今も時代の要請に応えている

マリアの御心会の会員達は避難所
作業室 職業訓練所を開設し…

ここに来る
前は何を
していたの?

何にも 道を
うろついて
いただけさ

…地方の教師の
ための研修所も
開設した

読み書きを学ぶことによって
キリストについて
知ることができます
家庭を守り 子ども達を
神へと導く真のキリスト者たる
女性を育てねばなりません

1809年4月11日
5年間の投獄生活の後
ドゥ・クロリヴィエール師
解放される

やっとだ!
自由の空気は
なんと心地よい
ことか…
神に感謝!

今後の住まいとなるカルメル修道院に
向かう道中 師はアデライド・ドゥ・シセへの
賛辞を惜しまなかった

創立者として母として
天はなんという聖なる魂をあなた方に
お与えになったことでしょう…
この数年 彼女の導きによって生きてきた
あなた方はなんと幸せでしょう
勇気あるあの方は 自分の命をかけて
わたしの命を助けたのです*

*アデライド・ドゥ・シセについての記録より

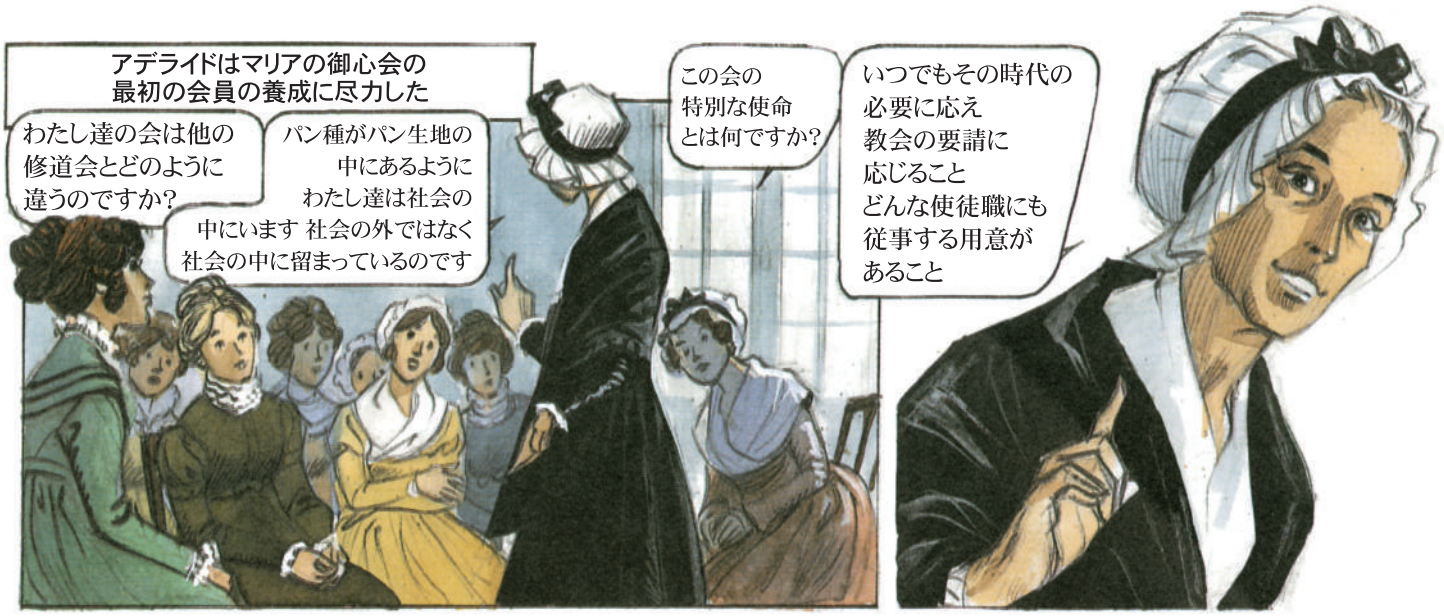
アデライドはマリアの御心会の
最初の会員の養成に尽力した

わたし達の会は他の修道会とどのように違うのですか?

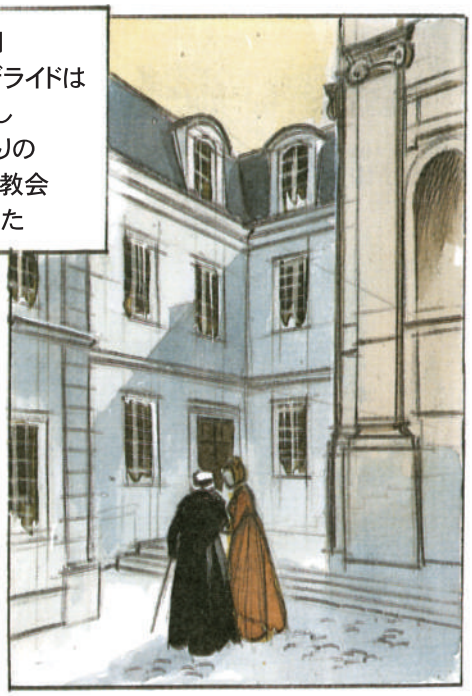
パン種がパン生地の中にあるようにわたし達は社会の中にいます 社会の外ではなく社会の中に留まっているのです

この会の特別な使命とは何ですか?

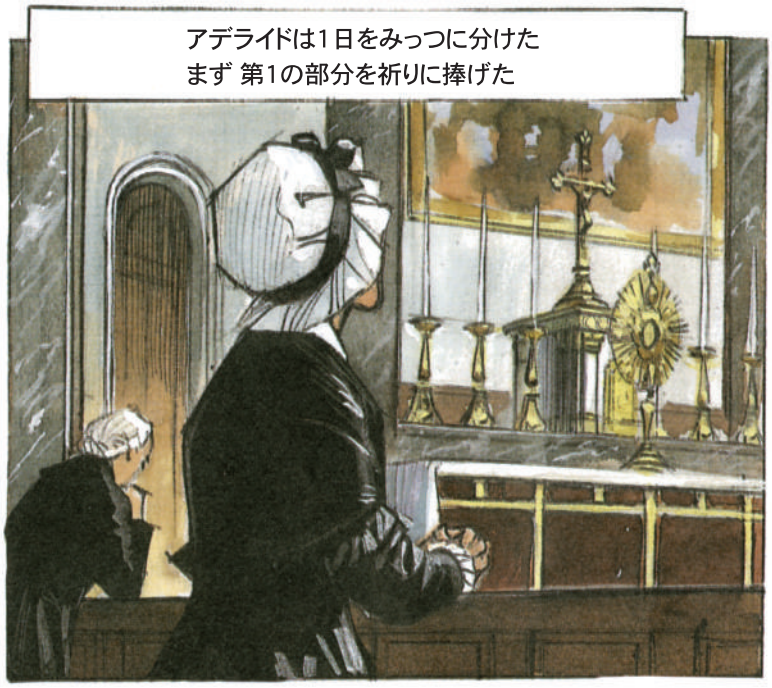
いつでもその時代の必要に応え教会の要請に応じること
どんな使徒職にも従事する用意があること



1817年1月
病弱なアデライドは
さらに衰弱し
バビロン通りの
パリ外国宣教会
に身を寄せた



アデライドは1日をみっつに分けた
まず 第1の部分を祈りに捧げた



次の部分を 修道会の
長上達との面会や
手紙のやりとりにあてた



そして最後の部分を
貧しい人々や
病人の訪問にあてた



病人を訪れて

病気がよくなるまで私達はお世話にきますよ

こんなによくしていただいて
お礼の言葉もありません

わたしではなく
主に感謝してください

アデライドは
マリアの御心会の
全会員に
手紙を書き これが
彼女の遺書となった

院長様の
お手紙の一節です

…聖なるおとめマリアに対する
愛と信頼において
ぬきんでるように努め
この地上において
ひとつの心と
ひとつの魂となることで
マリアと一致する恵みを
求めましょう

アデライドは会員達と
最後の集りをもった
ドゥ・クロリヴィエール
師も見舞いにきた

祈ることができません…
ただ苦しむだけです！

彼女は
力の許す限り
聖堂へ行った

なるべく多くの時を聖体の
おそばですごすことを望みます！

終油の秘跡を受け
聖体を拝領した

主よ わたしには
あなたを
いただく価値が
ありません…



マリー=アデライド・ドゥ・シセと
ジョゼフ・ドゥ・クロリヴィエールの創立した
マリアの御心会は
220年たった今も 世のただ中にあって
奉献生活を送っている